

○朝鮮官憲ト談判第一日記事

(明治九年二月十一日)

明治九年二月十一日午後一時黒田大臣井上副大臣朝鮮國判中樞府事申棧
都總府副總管尹滋承ト江華府西門内練武堂ニ於テ談判浦瀬裕通譯官本小
一森山茂小牧昌業陪坐相見ルノ禮畢サテ大臣茂ヲシテ意ヲ傳ヘシム

茂 此坐ハ過日申通シ置キシ如ク兩國重大ノ事件ヲ論スレハ貴大臣

隨員五名ノ外ハ盡ク之ヲ避ケシメヨ

細ニ談話セン席ヲ前メテハ如何

彼諾シテ人ヲ退ケ席ヲ前ム

申 聞ク前日貴國兵士二名頂山島下ニ於テ溺死セシト驚歎ニ堪ヘス
速ニ各地方ヘモ嚴達セリ浮尸ヲ得ハ直ニ之ヲ報知スヘシ

13

大臣 厚意多謝

申 過刻任官ヨリ請フ所ノ兵卒各處ニ遊歩セサル云々ノ儀速ニ
御下命ナサレ感佩セリ

大臣 兵卒多シ若シ不行届ノ事アラハ幸ニ之ヲ告ケヨ過慮ヲ勞スル
勿レ

申 貴大臣ノ意ヲ用ル此ニ至ル深ク感謝ス
大臣 今日ノ會晤ハ乃チ我等使命ノ意ヲ述ンガ爲ナレハ請フ之ヲ陳
セン

申 敬承

大臣 我皇帝陛下兩國三百年ノ舊交ヲ敦フスルノ意ヲ以テ貴國接待
ノ大臣ヘ細ニ晤談イタスヘシト鄭重ニ命セラレタリ

14

申

兩國三百年來ノ交誼誠ニ廢ス可ラサルナリ今更ニ舊交ヲ敦フ
スルノ言ヲ承ケ殊ニ感謝ニ堪ヘス

大臣

使命ノ大意ハ向キニ我外務卿理事官廣津弘信ヲ派シ之ヲ報セリ

申

此事已ニ承知セリ

大臣

我國王政維新ノ始書ヲ貴國ニ贈リ其由ヲ告ケ舊好ヲ修ム然ルニ
貴國之ニ接セス其後屢々使ヲ出セシカトモ今ニ至リ何等ノ回答
ナシ兩國情意ノ冷カラサル此ニ因ルニ非スヤ

申

兩國間ニ從來慣習ノ例格アリ其例格上ヨリ情意ノ阻隔ヲ生セ
シ故アラン今更憫忙セリ(憫忙ハ心痛ノ意ナリ)

大臣

之ニ加フルニ先般我汽船雲揚編清國牛莊地方ニ航スル途中水ヲ
需メンカ爲メ草芝鎮ニ到リシニ遽ニ砲撃ニ遭ヘリ此又交情ノ冷

カラサルヨリ起リシナリ

申

江華島ハ京城接近ノ地故ニ守衛ヲ嚴ニス貴國徽章見本ハ既ニ
我政府へ御差出シ相成シナレトモ未タ地方へハ達シ置カス尤
其船ハ黄色ノ旗ヲ立タレハ全ク別國ノ船ト認メ防守ノ爲砲聲
ヲ發セシナリ

大臣

黄色ノ旗ヲ立テシトハ疑フヘシ正シク日本國旗ヲ掲ケタルニ相
違コレナシ此件ハ逐次御談判ニ及フヘシ

申

地方ヨリハ黃旗ナリシ由ヲ届ケ出タリ誤リ認メタルカ尤貴國
旗章見本ハ未タ江華へ達知セス且其際異様ノ船舶近海へ來往
スルノ說アリ故ニ貴國船ナルヲ知ラス砲聲ヲ發シタルナリ今
般廣津ヨリノ報ニテ初テ貴國船ナリシヲ知レリ

大臣

我國支那ト條約ヲ結ビシ以來汽船ノ貴國沿海ヲ往來スル殊ニ繁シ故ニ誤認等ノ害ナキヲ要スル爲國旗見本ヲ貴國ニ交付セシハ已ニ久シ

申

貴國國旗見本我朝ニ達シタルハ確乎タリト雖トモ全國ヘ公布セサレハ兩國交際ノ事未タ十分ナラサル處アレハ外務卿ノ書契ヲ收ムルノ事ニ至テ後公布スヘシト思ヒシナリ今地方ニ於テハ別ニ公布ヲ開カス忽チ黃色ノ旗ヲ見發砲セシナラン然ラサレハ平常商船等ノ海上風波ノ難ニ罹ルノ事アレハ直ニ之ヲ救恤スルヲ爲ス況ヤ貴國軍艦ニ謂レナク無禮ヲ加フ可ケンヤ縱令交際ノ事十分ナラス書契ノ往復ハナキトモ兩國敵視スルニ非サレハ暴撃スルノ理ナシ故ニ誤認等ノ害ヲ防クカ爲メ故ラニ

大臣

17

申

通知シタル徽號ヲ人民ニ告知セサルハ事等閑ニ屬セリ
當時其船若シ我國ニ留リ果シテ貴國船ナルヲ知ラハ處分ノ道モアルヘキニ其船ハ永宗城ニ至リ火ヲ放チ兵器ヲ奪ヒ直チニ歸リ去リシニヨリ全ク外夷ノ所爲ナルト思ヒシナリ自後此等ノ事出來セサル様注意イタスヘシ

大臣

此等ノ事件ハ必竟兩國情意ノ阻隔ヨリシテ生スル所ナレハ今因和好ノ大局ヲ全フセハ向來此ノ如キ不都合ハアルマシ今永宗城云々ノ件ハ當時該船江華府ニ到リ其故ヲ問ハント更ニ國旗ヲ三桅ニ掲ケ進往セシモ砲撃益急ナルニヨリ不得已退去困難ヲ極メ防禦ノ術ヲ盡シタリ是ハ我國ヲ敵視セラレシニ當レリ又我國ノ書問ニ應セラレサル已ニ八箇年ヲ經タリ何レモ其順序ヲ述テ書

18

類ヲ差出シ談判ニ及フヘシ

申 其御書類ハ拜見致スヘシ

大臣 我等ハ貴國ト使事ヲ議スルノ全權ヲ委付セラレタリ貴大臣モ亦然ルヤ

申 貴大臣ハ他國へ出使ノ事ナレハ左モアルヘシ我國ニ於テハ使ヲ他國ニ遣ルトキハ格別今般ハ近京ノ地ニ在テ接對スレハ時稟報ヲ經テ公幹ヲ主理スヘシ

大臣 乍然幾許カ御委任ノ權限アルヘシ

申 貴大臣ヲ接待スヘキノ命ヲ奉シタレトモ貴大臣ノ議スル所何等ノ事ニ及フカ計リ難シ故ニ未タ其界限ヲ定メ得ス

大臣 然レトモ兩國交際ノ事務ヲ商議スルニ當テ條ヲ逐テ區分セハ必

ス貴大臣ノ專對シ得ヘキト否サルトノ別アラシ

申 我輩ノ派出セシハ唯貴大臣ヲ接待スルノ命ヲ受ケシノミナレハ談判ノ事件ニヨリ京師ニ報シ處分ヲ仰クハ今日ノ職分ナリ

大臣 初メ釜山ヨリ貴國ノ秉權大臣ニ面商スヘキヲ報知セリ然ルニ今貴大臣出接シテ委任ノ權ナシト云フハ心得難シ

申 我國ニ於テハ使臣ニ付スルニ全權ヲ以テスル事ナシ此地ハ京城ヲ經ル遠カラサレハ御談判ノ件ニヨリ奉報スルト否トヲ區別シ時々相商スヘシ

副大臣 向キニ貴大臣云フ従前兩國情意ノ阻隔スル甚タ憫忙スト是レ貴朝廷ノ意ナルヤ將タ貴大臣ノ意ナルヤ

申 滿廷ノ君臣皆憫忙ス然レトモ此ニ頗曲折アリ言ハスシテ止マ

シカ若シ聞クヲ欲セハ請フ之ヲ説カン

副大臣 國王殿下憫忙諸大臣モ亦憫忙ストナラハ既往ノ事強テ之ヲ聞クヲ要セス

申

強テ之ヲ説クヲ要セスト雖トモ其大略ヲ陳セン

申

會テ日本ノ八戸順齋ナル者ノ清國ニ在ルヤ貴國兵ヲ出シテ我國ヲ征シ進貢ヲ責ントスルノ謀アルヲ説ク此事新聞紙ニ載セ各國ニ宣布セリ故ニ清國政府之ヲ我國ニ咨問ス我國正ニ疑懼ノ際貴國維新ヲ告ルノ書偶マ至ル書中皇勅等ノ字アリ且書体舊例ニ違フ是ヲ以テ益疑惑ヲ生シ以テ情意阻隔ヲ致ス然レトモ今日ニ至テハ事皆氷解セリ今談從前ノ事ニ及フ故ニ之ヲ説クノミ

21

副大臣 貴國內情如何ハ我カ與リ知ル所ニ非ス各國互ニ禮ヲ以テ相待シ

書問必ス報スルハ交際ノ道ナリ貴國ノ我國ヲ待スル數次ノ書簡八年ノ久ヲ經ルモ一言ノ回報ナキハ何ノ故ソ

申

貴諭ノ如ク兩國ノ阻隔ヲ致セシハ我ヨリ之ヲ爲セリト雖トモ八戸説ク所ノ件ハ各國ニ流傳シ人々貴國ノ我國ヲ辱ムルヲ愧憤スルノ際書契例ニ違フヲ觀テ益疑惑ヲ生セシハ向ニ説ク所ノ如シ然レトモ事既往ニ屬ス姑ク置テ論セス今後親睦ヲ厚フシ以テ情意阻隔ノ憂ナカラシムヘシ

副大臣 勿論強テ既往ヲ論スルニ非スト雖トモ八戸ノ説ニ因テ疑惑ヲ生

セシハ貴國ノ自カラ爲ス所ニシテ我政府ノ知ル所ニ非ス若シ人
民ノ説ヲ取テ交際ノ事ニ關涉セシメハ我國或ハ征韓ノ説ヲ唱フ

22

ルモノモアルヘシ貴國人民或ハ政府ヲ怨望スル者アルモ計リ難シ各政府相交ルノ言ニ非サレハ憑テ以テ證トス可ラス故ニ此等ノ疑惑ヲ以テ兩國ノ和ヲ妨クルハ今既ニ悔悟セラレシナラン

申 我自ラ此疑惑ヲ起セシトノ義實ニ然リ但日本人民ノ此ノ如キ説ヲ爲シ遂ニ新聞紙ニ載スルニ至リシハ實ニ恨ムヘシ然レトモ此事今己ニ氷釋ス今後益和好ヲ謀ルヘシ

副大臣 今貴大臣頻リニ新聞紙ヲ提起ス夫レ新聞紙ハ政府ノ關知スヘキ者ニ非ス各國ノ新聞紙或ハ其君主ノ非ヲ指斥シテ之ヲ掲クル者アリ若シ新聞紙ヲ以テ交際ノ事ニ關涉セハ各國相争ヒ干戈絶ユルナカラン此等ノ事ニ疑ヲ懷キシヲ悔悟セラルハ當然ナリ

尹申 今日ヨリ之ヲ觀レハ實ニ笑フ可シト雖トモ當時ハ該件ノ新聞

紙ニ載セタルヲ聞キ恥辱ヲ外國ニ招ケリト思ヘリ向後ハ敢テ之ヲ信セス貴國ト必ス舊好ヲ修メ兩國ノ交リ誠信敬禮ヲ以テ旨トス可シ

大臣 今副大臣ノ陳セン如ク新聞紙ハ信スヘキ者ニ非ス若シ一々之ヲ信セハ兩國ノ和好ヲ破リ終ニ數百萬ノ生靈ヲ塗炭ニ陥ルニ至ラシ既往ハ置テ之ヲ論セスト云ト雖トモ向後又此ノ如キ事アルトキハ兩國ノ交和必ス保ツ可ラス實ニ歎息ニ堪ヘス且從前兩國關涉ノ事ハ都テ證據トスヘキノ案アリ彼ノ八戸カ虛説ノ如キモ當時己ニ宗氏之ヲ辨明セリ

申 當時ハ新聞紙ノ何物タルヲ知ラス宗氏ニ照會セシニ八戸ハ日本人ニ非サル旨回答アリシヤニ覺ヘタリ

大臣 右ハ當時往復ノ書面ヲ奉示スヘシ

前年森山ノ貴國東萊府使朴ト約セシ事件遂ニ背反ニ至リシハ我カ朝廷甚不快ナリ

尹申 八戸一條ハ内情ヲ明シ陳述シタルコトニテ向後新聞紙ニ關係スルコトナケレハ別ニ書面ヲ受クルヲ欲セス

大臣 念ノ爲メ一應承リヲキタシ従前兩國情意阻隔我ノ書問ニ答ヘス

八年ノ久ヲ經遷延今日ニ至リシハ非理ト思ハルヤ

申 戊辰以來書契ノ件従前之ヲ拒ミタル者今悉ク氷釋セリ向後之ヲ拒マス異議ナク領受スヘシ

副大臣 然ラハ我國ノ情意既ニ能ク相通ス貴國ノ之ヲ拒ミシハ今悔悟セラレシナラン

25

尹申 我等貴大臣ヲ接待スル一介ノ使臣ナレハ悔悟ノ字面ハ説キ出シ難シ従前ノ疑團都テ氷解セシナリ

副大臣 然ラハ此ノ如キ事件友國ニ對シ至當ナルト思ハルヤ

申 既往ノ事ハ必スシモ是非ヲ論セス今後ノ和好ヲ謀ラント己ニ之ヲ説ケリ

副大臣 事ノ是非ヲ判セストハ其意ヲ得ス今姑ク兩國交際ノ事ヲ以テ之ヲ論セス惟貴大臣自ラ反省セヨ朋友相交ル約ニ背キ信ヲ失フハ理ニ合フトスルカ悖ルトスルカ

申 向ニ數々説ク所ノ如ク戊辰以來新書契等ノ意都テ之ヲ拒ムナシ但シ前日ノ非ヲ陳謝スルハ本大臣ノ敢テ爲スヲ得サル所ナリ

26

大臣 此儀ハ何分御確答コレナキニ付姑ク之ヲ置ク今一應雲揚艦ノ事

ヲ問ハン過刻貴大臣云フ雲揚艦ハ守兵其日本船ナルヲ知ラスシ

テ誤テ之ヲ砲撃スト貴朝廷之ヲ何トカ謂フ

申 貴國船ナルヲ知ラスシテ發砲ス故ニ守兵罪ナシ

大臣 然ラハ其誤撃ニ遭シハ如何

申 既ニ貴國船ナリシヲ知レハ我朝廷宜シカラサル事ヲ爲セシト

思フナリ

大臣 今日ハ時刻移レリ之ヲ明日ノ會晤ニ譲ルヘシ

申 諾

大臣 談判ノ事件兩意徹底シ難キ儀モ可有之互ニ隨員ノ中然ルヘキ者

ヲ擇ヒ細目ヲ商議セシメ意義貫通スル様イタシタシ

申 決議ハ兩國大臣ノ面晤ニ付スヘシ隨員ヲ以テ細目ヲ議問スル

ハ異議コレナシ

大臣 決議ハ固ヨリ然リ但隨員ノ應接ハ談判上意義ノ通シ難キ者等ヲ

質問セシカ爲ナリ貴隨員ハ何某ヲ出サル、ヤ此方ヨリ差ス者モ

姓名ヲ申上置クヘシ

申 我ノ隨員ハ我等ノ官爵ニ對シ隨從セラレタル者ニシテ朝命ヲ

奉シ公務ヲ管スル者ニ非ス貴隨員トハ自カラ差別アリ如何シ

テ可然哉

大臣 我國勅任官ヲ以テ大臣トシ其次ハ奏任官トス我カ隨員ハ公務ヲ

行フモノニシテ奏任ノ輩ナリ卑職ニ非ス故ニ副官ニ接シテ可ナ

ラン

手 我朝命ヲ奉シ貴大臣ニ接待ス貴國隨員ニ接スル能ハス

申 任官等ハ公務ニ關スル者ナレハ隨員ニ應接セハ如何

大臣 相當セス

申 貴國隨員ト異ナレハ相當ノ者コレナシ要務アラハ任官等ヲ貴

館ニ召ヒ其意ヲ本大臣ニ轉知セラルヘシ

大臣 諾

談畢ル彼酒ヲ供セント請フ大臣之ヲ辭ス彼固ク請テ已マス少アリテ

酒肴羅列シ樂ヲ階下ニ奏ス五時歸館

○談判第二日記事

明治九年二月十二日午後第一時黒田辦理大臣井上副辦理大臣朝鮮國大

臣申機ヲ滋承ト江華府鎮撫保登營門前執事廳ニ於テ談判浦瀬裕通譯官

本小一森山茂安田定則小牧昌業荒川德滋陪坐相見ルノ儀畢リテ

申 貴兵士瀕死ノ儀京師へ上申シタルニ朝廷ニ於テモ甚タ氣ノ毒

ニ存スル旨申來シト尤地方へモ普告致シヲキタレトモ未タ流

屍ヲ得タル報知無之

大臣 貴朝廷ノ厚意別テ辱ナシ

大臣 昨日談判ノ續キヲ申上クヘシ是迄兩國情意阻隔セシハ八戸順齋

ノ說新聞紙ニ記載スルニヨリ貴國民情紛紜ノ次第モ承知セリ然

ルニ新聞紙ノ信スルニ足ラサルハ既ニ昨日委詳陳述セシ通ナリ